イベントレポート（平成30年度上半期活動報告）

館蔵品特別鑑賞講座

～茶道具を中心に～

日　　付：平成30年6月24日（日）
時　　間：14:00～15:20
参加人数：21名

坪井副館長の解説。参加された皆さま、頷いたり熱心にメモを取っていました

隆泉苑 書院の間をしつらえて、皆さまをお待ちします

隆泉苑の新緑が美しく眺められる書院の間で、二十数名が参加して開催されました。床の間には、御軸は織田有楽斎の手紙で、お花は竹籠に今日の日にぴったりの半夏生と紫陽花でした。他に桃山時代の織部焼の作品が飾られておりました。織部焼は、戦国武将の古田織部によって作られ、また織部は千利休の弟子でもありました。今回の赤織部亀甲文平茶碗はこの時期のお茶会にぜひ使いたいと思う一ぴんでした。違い棚に置かれた角鉢のデザインは現代作家が考えたと言ってもおかしくない文様であり、今も私達を魅了する濃い緑の釉薬はとてもうつくしかったです。総織部笹文硯は繊細な硯で感動したのは、私だけではないと思います。その後、銘「青楓」というお菓子でお抹茶を一服いただき至福のひと時を過ごしました。感謝です。

（ミューズクラブ運営委員　大庭治美）

佐野美術館　展覧会情報

平成30年 9月8日(土)～10月14日(日)

江戸にあそび、街道をゆく－北斎・広重競べ－

和泉市久保惣記念美術館の浮世絵版画コレクションより

江戸後期、同時代に活躍した葛飾北斎と歌川広重の浮世絵版画の展覧会を開催します。

本展では、大阪・和泉市久保惣記念美術館所蔵の約6,000点を超える浮世絵版画から厳選した、名品約150点を公開します。

見どころは「東海道五十三次」。東海道シリーズは広重が有名ですが、先に手掛けたのは北斎でした。今回は北斎の東海道ものの初期作「春興五十三駄」を出品し、広重の東海道五十三次とを比べて展示します。同じテーマでもそれぞれの視点から描かれた作品は、北斎・広重らしさの魅力に溢れていて必見です。

その他、鈴木春信、東洲斎写楽、喜多川歌麿など江戸時代を代表する浮世絵師の名品も合わせて展示します。是非ご来館ください。

葛飾北斎「冨嶽三十六景　凱風快晴」天保2年(1831)頃

歌川広重「東海道五十三次之内　庄野　白雨」天保4年(1833)頃

掲載作品2点　和泉市久保惣記念美術館蔵

今後の展覧会スケジュール

平成30年 10月20日(土) ～ 12月24日(月)　おさるのジョージ展　「ひとまねこざる」からアニメーションまで
平成31年　1月　7日(月) ～　2月24日(日)　REBORN　蘇る名刀
平成31年　3月　2日(土) ～　4月　7日(日)　佐野美術館のおひなさま

ミューズクラブ会員　募集中

●正会員：1万円
●ゴールド会員：2万円
●特別会員：10万円

ミューズクラブでは会員を随時募集しています。年間パスポートの発行や音声ガイドの無料貸出、ショップでの買物1割引、会員限定イベントの開催など様々な特典があります。詳しくはミューズクラブ事務局（TEL055-975-7278）までお問合せください。

新規入会者（平成30年4月1日～）

ゴールド会員　松本尚武
正　会　員　植松正子、坂本勝彦、杉本淳光、武井成美、肥田愛梨菜、平井義正

※敬称略、50音順

Number 22 2018.09
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報　ミューズ交歓
2018年9月号／第22号
発　行　日／平成30年9月1日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミューズクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ:http://www.sanobi.or.jp

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 22 2018.09
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM

平成30年度下半期　活動予定

イベントスケジュール

平成30年度下半期に開催されるイベントをご紹介します。お気軽にご参加下さい。

歌舞伎座鑑賞

日帰りバス旅行

日　　付：平成31年1月のいずれか1日
時　　間：7:00～20:00
会　　費：会員25,000円／一般30,000円
定　　員：48名（要申込・先着順）
演　　目：壽 初春大歌舞伎
（昼の部11:00～16:00、1等席、お弁当付き）

初代（第一期）の歌舞伎座は、1889（明治22）年11月21日に開場しました。外観は洋風でしたが、内部は日本風の檜づくりでした。平成25年に新しくなった第五期の歌舞伎座は、第四期歌舞伎座の瓦屋根、唐破風、欄干等の特徴的な意匠を踏襲しながら、銀座の街並みと調和する端正な建物となりました。

今回ミューズクラブでは、3回目の歌舞伎座鑑賞日帰りバス旅行の開催となります。新春に相応しい、豪華役者陣が勢ぞろいする華やかな舞台は見逃せません。お芝居だけでなく、芝居町のにぎわいを再現したという地下２階の「木挽町広場」には、歌舞伎座ならではの食べ物屋やお土産屋がずらりと並びます。こちらも是非お楽しみください。

※会員の皆さまはイベントチラシをご確認の上お申込み下さい。
日程や申込方法など詳細は開催日の約2ヶ月前に郵送でご案内します。
※会員のお連れ様であれば、一般の方もお申込みいただけます。

平成30年度下半期　活動予定

イベントスケジュール

十三夜の宴（庭園コンサート）

日　　付：平成30年10月21日（日）
時　　間：17:00受付・開場／17:30開宴
会　　費：会員3,000円／一般5,000円
定　　員：約100名（要申込・先着順）
会　　場：佐野美術館庭園
（雨天の場合は佐野美術館1階ロビー）
出　　演：フルート：Izumi
タップダンサー：清水夏生
ピアノ・アコーディオン：髙島真悟
ベース：中司和芳

香り豊かな樽酒も毎年好評です

毎年、かがり火と秋の草花、行灯はかかせません

毎年恒例の、十三夜の月と音楽を愉しむ演奏会「十三夜の宴」。国の登録有形文化財である隆泉苑の庭園で、美しい調べを月を愛でながら聴いていただく屋外コンサートです。

今年の催しは、フルート、ピアノ、ベースの音楽にタップダンスを取り入れた異色の組み合わせ。各界でそれぞれ活躍する注目の若手実力派ミュージシャンが集まり、日本の和や情緒の美しさをテーマに、ジャズの形式や様々な国の音楽要素で表現したオリジナル曲を中心にお届けします。月明かりの下、迫力ある演奏とタップダンスをお愉しみください。

演奏後はお弁当やバイキング形式の温かいお食事、樽酒をご用意しております。

EVENT イベント情報

館蔵品特別鑑賞講座
～日本刀編～

日　　付：平成30年11月23日（金・祝）
時　　間：14:00～16:00
会　　費：1,000円（会員／一般）
定　　員：20名（要申込・先着順）
会　　場：佐野美術館庭園内「隆泉苑」
※会員のお連れ様であれば、一般の方もお申込みいただけます。

毎回好評の日本刀の特別鑑賞講座を今年度も開催します！渡邉館長の解説とともに、佐野美術館所蔵の日本刀を実際にお手に取ってご鑑賞いただきます。展示室のケース越しに接するときとは違い、手に取り刀を動かしたり姿を眺めたり、細部までじっくり観察することができます。美術品に接する上での心構えも館長が丁寧に指導しますので、初心者の方でも安心してご参加ください。

館長の解説は、毎回わかりやすく面白いと好評
皆さん熱心に耳を傾けます

作品を扱うときは姿勢を正します

平成30年度上半期　活動報告

イベントレポート

平成30年度上半期は、3つのイベントが開催されました。

会員のつどい

日　　付：平成30年4月29日（日・祝）
時　　間：15:00～18:00
参加人数：50名

落語の後の懇親会
古今亭さんも参加してくれました

落語家
古今亭始さん

演目「お見立て」
登場人物の
遊女・喜瀬川花魁などを
表情豊かに演じます

演目「初天神」の
子供と、子供に
振り回される父親

昭和の日の4月29日、ミューズクラブ「会員のつどい」が佐野美術館講堂で開催されました。総会にあたるもので、平成29年度の事業報告、会計報告、平成30年度の事業計画や美術館の展覧会計画などが説明されました。

楽しみは、やはりその後の落語と懇親会です。噺家は古今亭始さん。2年続けてお招きいたしました。

一席目は「初天神」。お父つぁんと悪ガキが天神さんの縁日で抜け目無さ比べをする図々しい噺。二席目は廓噺の「お見立て」。花魁の喜瀬川は大嫌いな客が来たので、若い者に、旦那に焦がれて死にました、と言わせる。客は墓参りすると言って聞かず、近場の寺の適当な墓石に参らせるが、戒名が違う。「どの墓だ?」「よろしいのをお見立て願います。」

懇親会では噺家さんも一緒に会話を楽しみ、豊かなひとときを過ごしました。

（ミューズクラブ運営委員　小林俊）

芸術鑑賞　日帰りバス旅行

日　　付：平成30年7月5日（木）
時　　間：7:00～20:00
参加人数：48名

毎回キャンセル待ちが出るほど人気の「芸術鑑賞日帰りバス旅行」。今年度は、山種美術館と国立劇場＝歌舞伎鑑賞＝。元気溌剌、爽やかな参加者には梅雨空も蒸し暑さも堪えず、一路、重要文化財・著名日本画家の作品を多数所蔵する山種美術館へ。特に「琳派－俵屋宗達から田中一光へ－」の特別展は見ごたえがありました。参加会員の某ご夫婦がオープン時に結婚式を挙げたというANAインターコンチネンタルホテル東京での昼食後、国立劇場へ。今回は中村錦之助・中村時蔵・坂東新悟演ずる近松門左衛門の日本振袖始の一幕－八岐大蛇と素戔嗚尊－ 出雲国簸の川川上の場を鑑賞。演目前の坂東新悟の明快な解説もあり、内容をしっかり理解した上で歌舞伎を楽しむことができました。田中一光・坂東新悟両氏にも伝統芸術の神髄がしっかり伝承されていることを目の当たりにし、芸術の素晴らしさと奥深さを再認識することができました。

（ミューズクラブ運営委員　堅田淳子）

～参加者の声～

・皆さんと一緒に素敵なひと時を過ごすことができました。歌舞伎の力強さ、改めて肌で感じました。
・山種美術館で初めて音声ガイドを使って見ました。説明を聞いてすごくよく理解できました。
・ランチは値段の割にはコース内容が庶民的でした。健康的な量で体調にはよかったです。歌舞伎の演目は華やかでわかりやすく、見ごたえがありました。全体的に、どの場所もゆったりと行動できて、楽しい一日を過ごすことができました。
・八岐大蛇の八つの頭の表現が面白かったです。

（一部抜粋）

山種美術館の撮影スポット
自分のつま先をいれての撮影です

今回の演目
「日本振袖始 八岐大蛇と素戔嗚尊」

毎回国立劇場の座席は1階席
役者の表情もよく見えます

国立劇場にも撮影スポットができました

山種美術館の学芸員さんが、バスの中で
展覧会の見どころを説明してくれました